

## 第34回 天文学に関する技術シンポジウム開催にあたって

国立天文台技術系職員会議代表 岡田則夫

このシンポジウムは1981年からほぼ毎年1回のペースで開催されています。近年は国立天文台技術系職員会議が中心となり、台内の観測所や関係の深い研究機関の協力を得ながら催してきました。今回は長野県木曾郡上松町を開催地として準備を進め、近隣の東京大学木曾観測所のスタッフのみなさまの協力を賜り、無事開催する運びとなりました。

このシンポジウムの特色は、「天文分野全般に関する研究や技術についての発表の場」であることです。そのため、光赤外とかミリ波サブミリ波と言った特定の波長領域に拘らず、さまざまな分野から多くの技術者や研究者が集い、最新の観測装置開発をはじめ機器運用、保守に関する事柄、新しい開発計画、プロジェクトの進捗、安全に関わる事柄、インフラ整備など、現在の天文分野で行われているミッションや状況を参加者が共有し、いろいろな角度からの議論や情報交換を活発に展開できる機会になっています。このことは、たとえば学会や最近の技術研究会など分科会形式で行われる報告会では得られないことで、天文学に関する技術を培っていく上で欠くことのできない有意義なシンポジウムであると思います。

ALMA、TMT、KAGRA、TAOなど大プロジェクトが進められる昨今、技術系スタッフやプロジェクト関係者には益々の活躍が期待されています。このシンポジウムを、みなさんの更なる飛躍に活用していただければ幸いです。

最後に、

2014年9月27日に発生した御嶽山の噴火において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に、お見舞い申し上げます。

